

鈴鹿の風 永戸 孝之 議員

障がい者(家族)支援について

(質問) 障がいがある方の保護者の声によると正しい施設情報、制度変更の情報、支援内容が、明確に周知されていないとある。①総合的な相談体制での的確な応答、周知。②緊急時の短期入所体制。③親亡き後の入所施設について伺う。

(答弁) ①障がい者福祉サービスを受けている約1,600名については相談支援専門員が「サービ

ス等利用計画」を策定する中で、多様な相談体制を可能にしている他、総合相談支援センター「あい」でのきめ細かい支援を拡充する。②緊急時の短期入所では、高齢者施設での入所指定を受けてもらうか、ベルホームでの休日開所拡大で改善を図っていく。③親亡き後の障がい者支援では、グループホームの整備費に係る補助を行うなど生活の場となる施設充実に努めていく。

その他の質問 ○生活困窮者支援の取り組みについて
○暴力の防止への取り組みについて

緑風会 山口 善之 議員

小型家電リサイクルについて

(質問) 平成25年4月に施行された小型家電リサイクル法により、ほとんどの家電製品がリサイクル対象となったが、パソコンは市では受け付けていない。小型家電リサイクル法では対象であり、早急に制度化してはどうか。

(答弁) 本市においても、平成25年12月より、小型家電を適正に再資源化できる事業者と契約

し、リサイクルに取り組んでいるが、パソコンについては、パソコンリサイクル法に基づくメーカーリサイクルが確立しているため対象外としている。市で受け付けできるようになれば、排出先の選択肢が増え、利便性が向上する面もあるため、今後は、個人情報保護など重要な課題を含め、早期に実施できるよう検討していく。

その他の質問 ○災害対策について
○介護予防について

鈴鹿の風 後藤 光雄 議員

鈴鹿市への観光集客施策について

(質問) 伊勢志摩サミット、インターハイ、東京オリンピック、国民体育大会と続く国内外からの観光集客のチャンスをどのようにとらえているか。特に文化的歴史的に価値の高い伊勢型紙による集客を図るべきと考えるが、市の考えは。

(答弁) 平成26年度入込客数は、前年より約13

万人増えて約465万人となっている。市に関心をもっていただく一手段として、本市の特産品を返礼品として利用する「ふるさと納税制度」も28年4月実施に向けて整備していく。伊勢型紙で染められた全国各地の留柄についての資料集作りは意義深く、「彫る」「染める」着物などの製品を「見せる」ために伝統産業会館と資料館との連携を、伊勢型紙産地協議会の皆様と協議しながら、前向きに検討したい。このチャンスに鈴鹿市の魅力を発信し、活性化につなげたい。

リベラル鈴鹿 森田 英治 議員

生活保護について

(質問) 生活保護の推移と現状について、また老後破産から高齢者世帯の生活保護の増加が推測される。医療費扶助の対応、支援体制、今後の対応について。

(答弁) 本市の生活保護世帯数は、ピークとなった23年の1,048世帯から、27年には923世帯と減少傾向にあるが、高齢者世帯は345世帯から428

世帯に増加している。社会福祉主事資格を持ったケースワーカーが13名。稼働年齢層は毎月、高齢者は4カ月に1回以上の訪問など、世帯の状況に応じて訪問支援を行っている。

医療扶助費が高額な理由は、医療費10割負担や長期入院患者の入院費用、手術費用などが主な理由である。ジェネリック医薬品の利用促進による医療費の抑制に努めている。

高齢化による生活保護世帯の増加についてもしっかりと対応していく。